

都道府県・ 指定都市番号	53	都道府県・ 指定都市名	横浜市	研究課題番号・校種名	3 (5) 幼稚園・小学校
				領域名	幼小接続
研究 課題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(5) 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るための指導計画の工夫、及び指導内容、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
指定 年度	平成 27 年度～平成 28 年度				
ふりがな 学校名 (園児・ 児童数)	横浜市栄区(笠間地区・桜井地区)		学校・地域の特色及び実態等		
	私立中野(なかの)幼稚園	267 名	○本校は JR 大船駅より徒歩圏内に住む小学生が通っている。大きなマンションから半数以上通っている。公立の保育所・幼稚園はなくすべて私立である。		
	私立かさまの杜(もり)保育園	73 名			
	私立アスク大船保育園	38 名			
	私立杜(もり)ちゃいるど園	36 名			
	横浜市立笠間(かさま)小学校	680 名	○平成 25 年度より横浜市の幼保小連携推進地区の委嘱を受け、かさまの杜保育園及びアスク大船保育園とともに笠間地区として幼保小交流と連携の在り方を探ってきた。		
	横浜市立桜井(さくらい)小学校	340 名			
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市栄区笠間 3 丁目 2 8 番 1 号 (045-892-6602)				
研究内容等掲載 ウェブサイト URL	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kasama/index.cfm/1,0,57,html				
研究のキーワード					
○幼稚園・保育所における小学校教育を見通したアプローチカリキュラムと幼保の学びを生かすスタートカリキュラム					
○「表現(幼保:表現 小学校:音楽・図画工作)」でつなぐ幼小の接続カリキュラム					
○単発の交流よりも回を重ねて互いが高まる交流。子供だけでなく、教職員の接続への意識が高まる交流。地域や保護者の安心感が高まる交流。					
研究結果のポイント					
○ 入学当初、幼稚園・保育所における遊び歌や絵描き歌などの経験を生かすことで、多数の園での様々な学びを児童同士が共通化し、個々の表現の幅を広げることができた。					
○ 「表現」でつなぐカリキュラム作りでは、まず幼保小の実践を知り、教職員が相互に授業や保育を行うことで、発達の段階にふさわしい指導の在り方が見えてきた。その後、成果と課題を生かして、すぐにカリキュラムの改善を行い、そのことで来年度の計画を具体化してきた。					
○ 年長児と 5 年生、年長児と 1 年生との交流関係が翌年にも継続し、6 年生と 2 年生に進級した児童の企画・実践力で 1 年生の安心感が増すと共に、そのことが 6 年生の自信につながった。また、5 年生の踊りを見たことで、園児が憧れを抱き、踊りへの学びが早く、深くなった。双方の学びの高まりや深まりが見られた。					
○ 一人一人の子供の情報交換を通して、双方の教職員が、互いの教育への見通しを持った指導に役立てることができた。					

○ 子供の姿を通して保護者や地域の方に幼小接続の必要性や意義が浸透し、学校評価の数値も他の項目に比べて高くなった。

1 研究主題等

(1) 研究主題

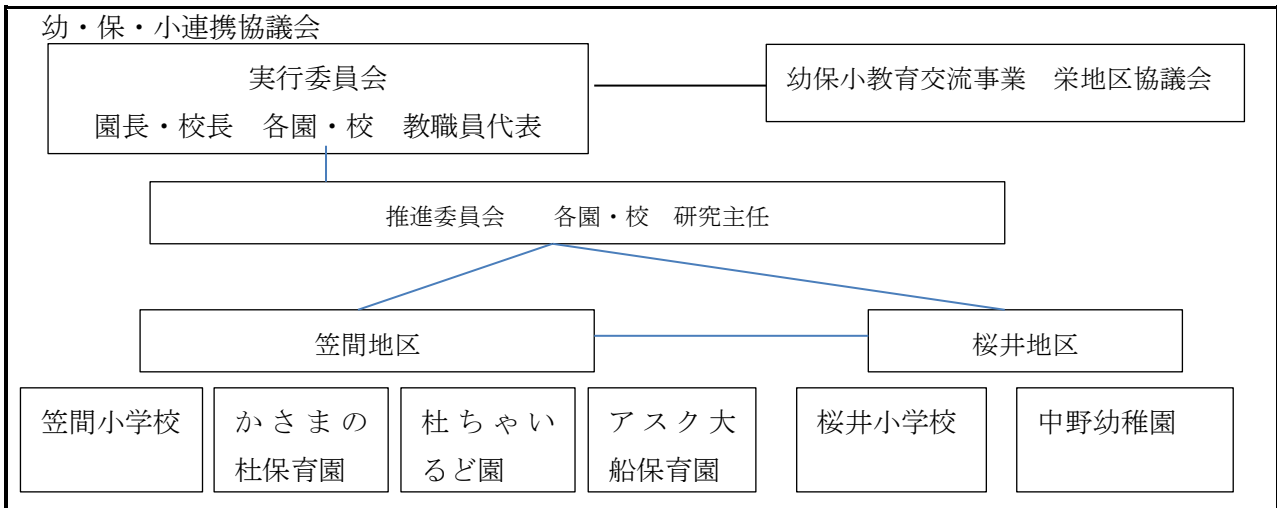
「子供の育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
 ～幼保の「学び」を生かした、カリキュラム・マネジメントの在り方～

(2) 研究主題設定の理由

平成25年度より、横浜市の幼保小連携推進地区の委嘱を受け、かさまの杜保育園及びアスク大船保育園とともに笠間地区として幼保小の交流と連携の在り方を探ってきた。その中で、単発の交流よりも複数あるいは複線的な交流が効果的であることが分かってきた。具体的には、1年生との交流では、学校紹介だけでなく、音楽や影絵などの「遊び」を核とした交流を積み重ねていくこと、また5年生との交流では、1年生になった時に出迎える6年生として事前に顔見知り、幼稚園や保育所でやってきたことが分かった上での交流となることが効果的であった。また、園児も「表現」において、教えてもらった遊び歌を楽しんだり、音を大切にしながら楽器を演奏したりする姿が見られ、「表現」としての高まりがみられた。

このことを受け、幼保の「学び」を生かした交流と連携を深めることで、具体的な子供の姿を想定した「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」を含む指導計画の改善及び指導の方法の多様化を図ることができると考えた。本研究では、子供の育ちを具体的な姿で捉えた、より実践的な研究を目指していく。また、発達の段階にふさわしい表現を受けての指導計画の改善及び指導の方法の多様化を図っていく。さらに、笠間地区には保育所のみで幼稚園がないので、中野幼稚園、そして近隣の桜井小学校を加え、3園2校で研究を進めていく。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成27年度	4月	保育所訪問 顔合わせ 今年度の交流計画の見直し 実行委員会 推進委員会 研究内容・方法について 保育所職員来校 スタートカリキュラムに参加 校長・音楽専科がかさまの杜保育園で音楽交流
	5月	運動会参観 (かさまの杜保育園職員)
	6月	校長・音楽専科がかさまの杜保育園で音楽交流

	<p>7月 5年生が年長児と初めての交流（ソーラン節を見せる）</p> <p>9月 1年生と年長児がワークショップで絵本作り</p> <p>9月 5年生が年長児と交流</p> <p>10月 かさまの杜保育園運動会に5年生がソーラン節で参加 5年生が年長児と交流 1年生と年長児の交流（「年長さんとなかよしの会」、給食交流）</p> <p>保育所・小学校の教職員による活動の振り返り O・A・J公演 合同音楽鑑賞会</p> <p>11月 和太鼓公演 合同音楽鑑賞会</p> <p>2月 1年生と年長児の交流</p>
平成28年度	<p>4月 保育所教職員来校 スタートカリキュラムに参加 小学校で今年度の交流計画の見通し</p> <p>5月 年長児が5年生のソーラン節の練習を見学</p> <p>5月 運動会参観（かさまの杜保育園職員）</p> <p>6月 弦楽器の演奏会 合同音楽鑑賞会</p> <p>7月 5年生が年長児と初めての交流 ソーラン節を見せる・七夕まつり</p> <p>9月 1年生と年長児の交流（年長児となかよしの会） 5年生が年長児と交流</p> <p>10月 かさまの杜保育園運動会に5年生がソーラン節で参加 1年生と年長児の交流（音楽朝会を参観） プラットホーム①（1年生と年長児の音楽交流）</p> <p>11月 プラットホーム②（1年生と年長児の音楽交流） プラットホーム③（1年生と年長児の音楽交流と給食交流） 5年生と年長児の交流と給食交流 2年生と年長児の給食交流</p> <p>1月 保育所・小学校の職員による研修会と活動の振り返り</p> <p>2月 1年生と年長児の交流</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ・年間計画及び実践計画
- ・子供の育ちや学びの具体の姿を通じた情報交換
- ・実践後のカリキュラムの修正・改善
- ・実践の足跡の作成及び学びの連続性を鑑みた次回の立案

研究を始めるに当たって、昨年度の成果と課題を確認し、本年度の本校が連携する幼稚園及び保育所の実態把握をし、昨年度の成果はどのように表れたか、特に課題となった点について、何が原因で、何を改善すれば課題解決となるかを探ってきた。そのためには、教職員間の情報交換を充実することが必要であり、全学年からなる「幼保小連携委員会」を組織し、特に具体的な子供の姿で語ることで内容や方法について考えてきた。

幼稚園・保育所の実態を通して、子供にとっては、遊び歌の楽しさを実感したり、手遊びを生かした影絵遊びの面白さ、不思議さを体感したりする経験が大切であることを感じた。「本物に触れる」ことで子供の感性は磨かれ、自分の表現も高まっていくと思われる。

また、保育所・幼稚園の教職員が、1年生の読み聞かせや遊び歌の指導を行ったり、小学校の教員が園での「表現」活動の指導を行ったりするなど教職員間の相互交流を行うことで、幼児・児童の学びが深まるだけでなく、この内容を系統的に行うことが子供の「育ちと学び」につながり、その結果、「幼保の『学び』を生かしたカリキュラム・マネジメント」ができるようになる。

(2) 具体的な研究活動（事例）

① 1年生と年長児の交流活動～保育士の小学校訪問～

スタートカリキュラムにおいて、3日間連続で保育士が小学校を訪問し、1年生に手遊び歌や本の読み聞かせを行った。1年生にとっては、違う園から来た子も自分と同じような活動をしてきたことが分かり安心感につながった。1年生担任にとっては、絵本の読み聞かせをじっと聞く子供たちの姿から園での「育ち」を知り、今後の指導に生かしていくことができた。

② 5年生と年長児の交流活動（年間を通じた交流）

幼児と児童の実態を把握した後、音楽科、図画工作科での実践や1年生、5年生との交流活動を行い、その事後には振り返りを次回の交流に生かすなど PDCA を意識して進めてきた。

また、全体の進捗状況を把握するために、年3回実行委員会 推進委員会を開き、交流時における具体的な子供の姿を通して話し合ってきた。11月には交流の様子を近隣の幼保小にも公開し、子供の様子を通して示した成果は大きい。

③ 「幼保の学びを生かすアプローチ・スタートカリキュラム」

「『表現』と『音楽』『図画工作』でつなぐカリキュラム」

今年度の成果と課題を受け、笠間地区として大切にしていきたい「幼保の学びを生かすアプローチ・スタートカリキュラム」「『表現』でつなぐカリキュラム」を作成し、実践、及び改善した。特に保育所・幼稚園のカリキュラムについては年長児のみの改善ではなく、年長に至るまでの生活や遊びの充実も見通した改善を行った。カリキュラムを基に、子供の姿に応じて無理せず実現状況を見守り、互いを高め合う交流を目指したい。

平成28年11月11日金曜日に実施した研究発表会では、幼保小の活動の様子やアプローチカリキュラムにおける「表現」やスタートカリキュラム「音楽科・図画工作科」の具体例を示した。成果については、「表現(幼保:表現 小学校:音楽・図画工作)」でつなぐ幼小の接続カリキュラムを示し、一年間の取組の様子をHPで公開してきた。

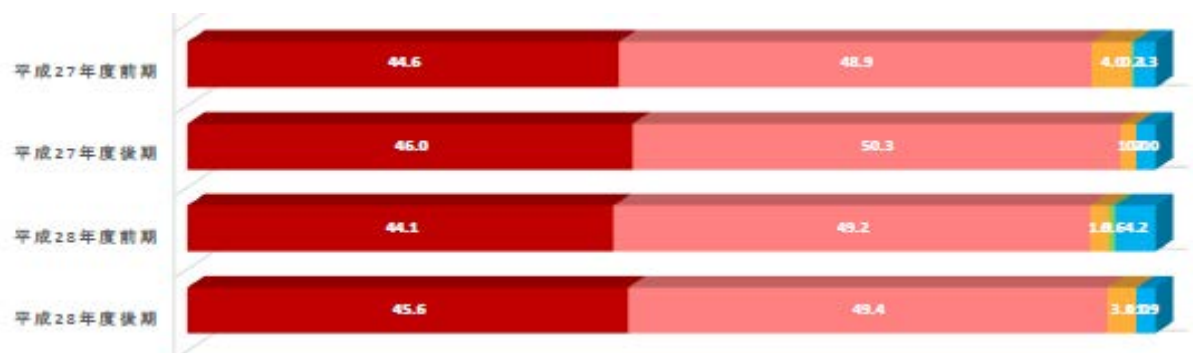
3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

- 幼保の学びを生かすスタートカリキュラムでは、多くの園から入学してきたことをメリットと捉え、それぞれの園での多様な遊び歌や絵描き歌などの経験を共有化することで個々の表現の幅を広げてきた。
- 「表現（幼保:表現 小学校：音楽・図画工作）」でつなぐカリキュラムでは、幼保の「遊び」の様子を把握した上で、校長や音楽専科による保育所での指導を行った。音遊びの実践経験の少ない保育士には、その指導の様子を見て、歌を歌うだけではなく様々な「音楽表現」の指導のあることについて知る機会となった。教職員が相互に授業や保育を行うことで、「表現」でつなぐカリキュラムにおける、発達の段階にふさわしい指導の在り方が見えてきた。
- 「年長児と5年生」、「年長児と1年生」の交流が年間を通してスパイラルに継続していくことで、単発の交流よりも回を重ねるごとに互いの学びが高まる交流となっていく。進級した6年生と2年生の企画・実践力で1年生の安心感は増し、6年生の自信にもつながった。また、5年生との交流では、5年生の踊りを見て園児が憧れ、教師が指導するより踊りの学びが早く、深くなった。双方の学びの高まりや深まりが見られた。
- 一人一人の子供の情報交換を通して授業や保育の在り方を学び、それぞれの教育に取り入れるとよいことを見だし、指導に役立てることができた。
- 本校の学校評価【平成27年10月、平成28年2月、10月 平成29年2月実施】
幼保小の取組についての保護者評価では、高い評価を得た。
「学校は、幼稚園や保育所、地域との交流を通して、豊かな心を育てている。」

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない E：わからない

H27. 10	44.6%	48.9%	4.0%	0.2%	2.3%
H28. 2	46.0%	50.3%	1.7%	0.0%	2.0%
H28. 10	44.1%	49.2%	1.9%	0.6%	4.2%
H29. 2	45.6%	49.4%	3.0%	0.0%	0.9%



(2) 今後の取組

今年度の成果と課題を受け、笠間地区として大切にしていきたい「幼保の学びを生かすアプローチ・スタートカリキュラム」「『表現』でつなぐカリキュラム」を引き続き実践していく。カリキュラムをもとに、子供の姿に応じて無理せず実現状況を見守り、互いを高め合う交流を目指したい。今後も「顔の見える関係」「子供の育ちを具体で語れる」教職員の関係を築き、誰もが安心して豊かに学べる環境をつくっていききたい。